

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100824
法人名	株式会社ユニマツトそよ風
事業所名	沼津ケアセンター そよ風 なごみユニット
所在地	沼津市中沢田391-1
自己評価作成日	平成 26年 2月 16日
	評価結果市町村受理日 平成 26年 4月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigospj/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	平成 26年 3月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

来客者及びご利用者様に対して、笑顔で元気よく挨拶する事を徹底しています。
ご家族様に安心・信頼して頂ける様に、連絡を怠らないようにしています。
ご利用者様、ご家族様の希望・要望には出来る限り応じられるように努めています。
虐待・接遇マナーの研修を実施し、ご利用者様の思いを受け止め、共に支え合い生活が出来るようにと心掛けています。
終末期ケアでは、小さな変化も見落とさないように職員間で連携を計り、ご家族様・主治医へ連絡。相談を迅速に行なっています。
地域の方々との交流を大切にし、気軽に声を掛けて頂ける様な関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの理念を「自分らしく、自由に」とし、各ユニットごと3カ月に1回目標を立て達成に向けて取り組みられています。職員の入れ替えがあり、管理者を中心に理念の共有や接遇について指導を行い、課題を持ちながら質の向上に向けて取り組みを続けています。ユニット全体は、木材を多く使った温かみのある雰囲気で作られています。共有スペースには、ソファスペースがあり、くつろぎの場となっています。ユニットごと花や装飾品を工夫されています。個人の好みに合わせた持ち込みが可能で利用者の中には、仏壇や鏡台、ダンスや写真などの思い出の品を持ち込まれています。対面キッチンが整備されており、利用者が食事

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

外部		自己評価		外部評価	
項目		実践状況		実践状況	
I 理念に基づき運営					
1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を唱和しています。 グループホームの理念は、事務所に貼り勤務前に確認しています。又ユニット目標を掲げ共有し、実践しています。	朝礼で法人理念唱和している。グループホームの理念を「自分らしく、自由に」とし、各ユニットごと3カ月に1回目標を立て達成に向けて取り組んでいる。評価は、行われず継続する事の難しさも感じている。	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「そよ風だより」を町内の回覧板にて回覧して頂いています。 地域の清掃等の行事に参加しています。 運営推進会議・そよ風まつりに参加頂いています。	町内会に加入し、地域の清掃や行事に職員が参加している。敬老会には、一部の利用者も声をかけられているが参加出来ていない。2年に1回のパーベキュー大会も予算の関係で参加出来ない。ホーム祭りには、地域住民の参加も多数ある。		地域行事の参加には、人員や予算の問題もあるが参加をきっかけに顔の見える付き合いとなり、互いに助け合える関係となるようこれからも取り組みを続けて欲しい。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症予防の理解、支援の相談に取り組んでいます。			
4	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・関係者方の意見・要望は、リーダー会議 フロア会議にて話し合い、サービスの向上・改善を行っています。	運営推進会議には、地域包括職員、家族、町内会長、民生委員等が参加。報告書は、市の担当職員や参加出来なかった家族にも配布している。しかし、残された議題についての報告がなされておらず記録の点でも課題が残る。		市の担当者に報告する際、参加につながらざるような働きかけを今後も継続して欲しい。また、報告書の記録方法についても見直しを行い、検討課題が次につながらざるよう取り組みを続けて欲しい。
5	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修会に参加したり、グループホーム連絡協議会にて、市・他施設との関係を築いています。 介護相談員の訪問が、月に一度あります。	担当者の挨拶を兼ねて運営推進会議に出席しているが、市の担当者が出席したのはこの一回となっている。その際身体拘束について家族からも質問が出され、意見交換の機会となった。日頃は、メールや電話で情報を共有している。		
6	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開催し、拘束をしないケアに取り組んでいます。	運営推進会議の中で勉強会を行った。委員会で勉強会は実施されており、職員の中から外部研修に参加している。事業所では、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、フロア会議・全体会議にて周知できるようにしています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修会資料を回覧し、全体会議にて周知できるようにしています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約の祭に説明し、理解・納得を求めています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時の会話から意見・要望・苦情を聞き取り、フロア会議・全体会議・運営推進会議に反映しています。	意見箱を設置しているが、事務所に設置されており利用がない。面会時に直接家族の言葉や意見を聞き取り入れている。「情報の共有や意見の統一」などの課題が上がりフロア会議の場で話し合うなど意見を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議・全体会議にて設けています。	「苦情などは、各ユニットで把握したい。」などの意見があり、ファイルにするなど意見を業務改善に生かしている。フロア会議で出された意見は、全体会議やエリア会議で報告されている。センター長と年1～2回面談や自己評価を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備が改善できるように努力しています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別面談・研修の時間を設けています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会・研修等で、情報交換・交流に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	事前調査・面談時に、趣味・生活歴・活動などを聴かせて頂き、ご本人のお話をゆつくりと聴く時間をゆつくり、スキミングを心掛けています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	利用相談受付時・事前調査時・契約時・面談時に ご家族様の要望を聴き、相談し個別に対応しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様の希望に添える様に、連絡を取り合いながら必要なサービスを提供・支援に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にし、ご本人の話を傾聴して助け合う関係を築ける様に努めています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子・特変時等の連絡・相談していただきます。 又行事等の参加協力をお願いをしています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内に写真・人形等置いて頂き、電話の要望等 に応え関係が途切れない様に支援していただきます。	家族に対してユニット便りや手紙で入居生活の様子を報告している。面会簿にて面会者を把握しており、面会時ゆつくりと過ごして頂けるよう場所の提供を行っている。手紙の代読や投函の支援も行っており、希望者は携帯電話を使用する事が出来る。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士で自由にお話しをして頂いています。会話が途切れない様に話題を提供し、楽しく過ごして頂ける様に支援していただきます。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組みサービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞い・退居されてからの面会・電話等を行っています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族様からお話を伺い、希望・意向に添えるように努めています。			「気づきシート」でADLやIADLの状態を把握している。その内容をアセスメントシートに反映しているが、本人や家族の暮らしに対する意向や情報が少なく、分析出来ない部分がある。
24		○これまでの暮らしの把握一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様からお話を伺い、足りない部分は担当ケアマネジャーより情報を得ています。			
25		○暮らしの現状の把握一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・日報・連絡帳・申し送り等で職員間の情報交換・共有し、把握に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が気づきシートを記入し、本人の状態の変化を多角的に観察しフロア会議にて話し合い、担当者会議を行い、介護計画に反映しています。	目標期間に合わせて施設サービス計画書や介護援助計画書のモニタリングを行っている。モニタリングは、職員会議で行われており、センター長や介護職員等から多角的な意見が出されている。家族の参加はないが、面会時に担当者が直接意見を聞いている。	家族が意見を出しやすいうように質問内容を工夫されると良いでしょう。また、モニタリング結果は、次の計画書に行かされるよう仕組みを作り、更なる質の向上を目指して欲しい。	
27		○個別の記録と実践への反映日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過記録にケアプランの番号を記入し、フロア会議等で情報を共有しながら、介護方法を検討し介護計画を見直しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているデイサービスや他ユニットとポランティアなどで交流しています。マッサージュを受けている方もいられます。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の敬老会・行事に参加したり、文化祭へ作品を出品・見学しています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医及び以前からのかかりつけ医のある方はどちら共連携しています。	協力医は、24時間対応が可能で定期的に往診が受けられる。かかりつけ医がある場合は、医療機関を選択する事ができる。かかりつけ医と協力医が連携を持ち医療を受けられるよう情報提供を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師による週1回の巡回があります。気になることがあった時には、常時連絡・相談し指導・指示を受けています。			
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じ、情報交換をしています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化・看取りの指針を書面にて説明しています。 終末期時は、カンファレンスを状態の変化に合わせて随時実施しています。	終末期の受け入れは可能で、看取りを行うケースもある。「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」を契約時に説明している。フローチャートに沿って対応している。また、その都度看取りに関する意思確認を行い、カンファレンスを重ねながら支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、救命講習を受け、緊急時の対応マニュアルの確認を行っています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各訓練を定期的に行なっています。	災害、風水害、地震に対するマニュアルを整備している。救命講習には、年一回任意で参加している。防災訓練は、年二回実施。夜間や日中を想定した訓練を行っている。地域協力については、課題を感じており協力を求めていきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況		外部評価 実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
			自己評価 実践状況	実践状況	外部評価 実践状況	実践状況	
IV		その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○トイレ・入浴・更衣時は必ずドアを開けて行なっている。 声掛けの仕方等は慣れ合いにならない様に、定期的に接遇マナーの研修を行っています。	接遇マナー研修を年一回実施。全体会議の中で管理者が指導を行っている。意思を伝えられない利用者に対する支援など課題を感じている。為ユニット目標に掲げ見直しを行っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が言いやすい雰囲気作りを心掛け、分かりやすい言葉でゆっくりと声掛けし出来る限り自己決定が出来るように支援しています。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日程はあるが、ご利用者様の状態・気分に合わせて希望に添える様に心掛けています。				
39		○身だしなみやおしゃやれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃやれができるように支援している	できる方は、お化粧をされたり、洋服を選ばれています。 更衣時には、衣類の確認を行っています。 二か月に一度、美容師にてカットをする機会を設けています。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の負担にならない範囲で、準備・片付けを手伝って頂いています。	対面キッチンが整備されており、利用者が食事作りの様子見たり、参加する事が出来ている。献立は、本部で決められたものをユニットで調理している。嗜好品は、おやつ等に取り入れている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立をベースに、常食・刻み・トロミの対応をしています。 食事量・水分量は毎にチェック表にて確認しています。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人様の状態に応じた口腔ケアを行っています。				

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ・リハビリパン使用の方も、日中はトイレ誘導し自立排泄の支援を心掛けています。	利用者の状態に合わせて、定時・随時誘導を行っている。排泄の状況は、排泄子エック表で確認している。トイレで排泄する事を基本とし、夜間もトイレ誘導を行っている。	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・乳製品・食物繊維を取り入れ排便チェックをおこなっています。 トイレ介助時、排便姿勢を整えたり腹部マッサージを行い便秘の解消に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めず、希望・体調・タイミングを合わせて入浴を行っています。	毎日入浴を基本と考えているが、拒否のある利用者も1日おきに入浴出来るよう支援している。入浴時間は、14時から16時30分としており、体調不良により入浴出来ない場合は、陰部清拭等の対応を行っている。	浴室には、浴槽が2層あるが現在は、1層のみ使用されている。それぞれの利用者の移動動作に合わせて浴槽を選択できると良いでしょう。また、入浴を楽しむための工夫についても更なる取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調・希望にて居室にて静養して頂いています。 夜間眠れない時は、リビングにてお話しをして過ごして頂いたり水分提供をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個人ファイルに閉じています。 不明な点は、医師・薬剤師に確認をしています。 個別に内服薬の管理をし、服薬時はご本人と確認してから内服していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・趣味等を参考にし、お好きな事・得意な事・ご利用者様同士会話が弾むように話題を提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩・外気浴にお誘いしています。 行事として外出・外食を計画し、そよ風だよりにてお知らせし参加の機会を設けています。	月の半分は、外に出る機会を作っている。内容は、外気浴や散歩が中心である。個別の外出については、希望者がおらず対応していない。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持っていられる方がいられますが、現金は紛失してしまう為職員がお預かりしています。 個別に買い物支援をする場合には、レジにて支払をして頂くように心掛けています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望時は電話でお話しをして頂いています。 手紙を出すことはありませんが、届いた手紙読んで頂いています。読めない方には、職員が読んで差し上げています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、行事の飾りを作って頂いたり と季節を感じられるように努めています。	ユニット全体は、木材を多く使った温かみのある雰囲気で作られている。共有スペースには、ソファスペースがあり、くつろぎの場となっている。カーテンや照明も明るい色を多く使っている。ユニットごと花や装飾品を工夫しており、部屋の入口は、利用者にわかりやすいよう表記がされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを利用し気のあった方同士がお話し出来るようにしています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用されていた家具・テレビ等を持参して頂いています。 ご家族の写真等を飾っていただいています。	施設で準備しているものは、ベッド・クロゼット・エアコンで、その他は個人の好みに合わせた持ち込みが可能となっている。利用者の中には、仏壇や鏡台、タンスや写真などの思い出の品を持ち込んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室を表示しわかりやすい様になっています。			